

西之表港

鹿児島県土木部港湾空港課

〒890-8577 鹿児島市鴨池新町10-1

☎099-286-2111(代)

URL : <http://www.pref.kagoshima.jp/ah09/infra/port/minato/cruising/nishinoomote.html>



1. 概況

〈種子島の玄関口〉

西之表港の位置する種子島は、鹿児島県本土の南方約115kmの海上に位置し、北北東から南南西にわたり約50kmに伸びた細長い諸島であり、古くは鉄砲伝来の島として知られ、また今日では我が国最大のロケット基地を島南部に有していることから、県内有数の観光拠点として多くの人々が訪れている。

〈西之表港の歴史〉

昔の種子島は「多称島」の文字で表され、大和國家との接触があったことが、古事記や日本書紀に残されており、西之表港が我が国と唐との交流ルートの一つに位置していたことや、足利時代には明国との貿易に際して、渡明船の出航基地として利用されたと伝えられている。

西之表港は昭和28年に県管理港湾に指定されると同時に、本格的な港湾施設の整備が開始され、その後十数年にわたり整備されてきた。昭和35年6月に重要港湾に指定され、種子島本島だけでなく、種子・屋久地域の物流拠点港湾としての役割を担うこととなった。

昭和37年には島民の長い願いであった、鹿児島・西之表航路の一日往復が実現し、船舶についても大型化・フェリー化された。

その後の経済の発展とともに県本土との海上交通はさらに頻繁になり、西之表港における港湾取扱貨物量も、大幅に増加し、昭和30年に17万2千トンであったものが昭和45年には41万2千トン、平成30年現在で132万トンにまで達している。

〈発展する西之表港〉

「世界自然遺産」で知られる屋久島を含む、種子島・屋久島地域は、その優れた自然や歴史・文化等を活かした観光拠点としても注目を浴びており、高速船ジェットフォイルが、平成元年に鹿児島～種子島・屋久島間に就航して以来、フェリーで4時間程度かかっていた鹿児島との間を約95分、屋久島との間を45分で結ぶようになり、島民の海上交通の足としての機能や観光客の誘致に大きな役割を果たしており、船舶乗降人員数は県内の離島港湾最高の49万人となっている。このほか種子島、屋久島地域には年間25隻程度のクルーズ船が入港しており、地域の観光産業をはじめ地域経済の発展に大きく寄与している。

南北600kmにわたる長い県域に広大な海域を有する鹿児島県は、数多くの離島で結ばれており、西之表港は、地理的・

社会的条件から交通ネットワークの拠点港としての機能を求められている。

また、種子島の玄関口としての物流・人流の拠点機能の充実に加え、クルーズ船やヨット等によるクルージングネットワークに対応した港湾施設の整備や、人々が海に親しむための賑わいと潤いのある港湾空間づくり等の多様な要請があり、これらに対応するため平成4年12月に港湾計画を改訂している。

平成25年7月、中央地区において、クルーズ船に対応した岸壁(-9.0m)の供用を開始しており、飛鳥Ⅱをはじめとするクルーズ船が寄港している。現在は、港内静穏度の向上及び機能強化を図るための防波堤改良整備を進めているところである。